



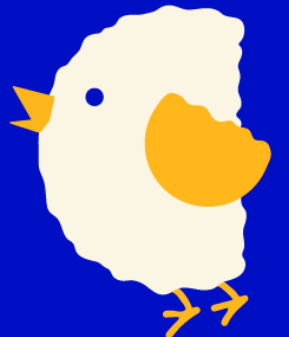
International Foster Care Alliance

第1回 IFCAリーダーシップ・シンポジウムのご案内

コロナ禍における
社会的養護の当事者ユース

～日本とアメリカのユースは何を経験したのか～

もうすぐ始まるちゅん♪



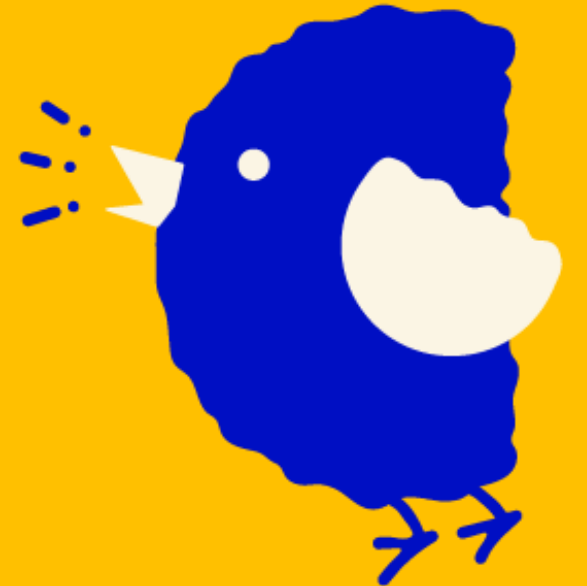
開会あいさつ

IFCA プロジェクトチーム
コーディネーター ちひろ



コロナ禍における日本の当事者ユース ～当事者ユース425名のwebアンケート調査より

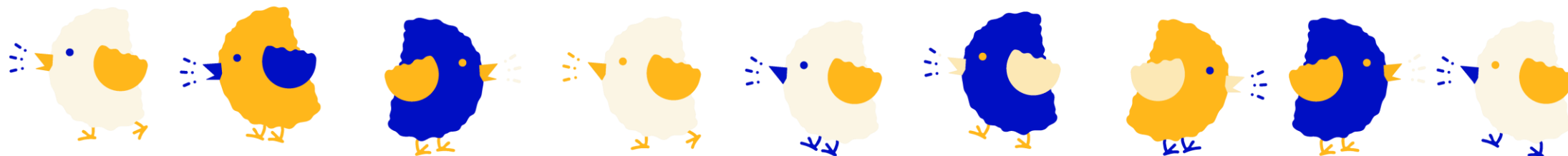
プロジェクトCのユースと研究者チームによる発表だよ♪





International Foster Care Alliance

IFCAプロジェクトC アンケート調査 報告&提言



はじめに



- IFCA日本法人内の有志のチーム「**IFCAプロジェクトC**」を結成
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、新型コロナ）の感染拡大が、社会的養護の当事者たちの生活においてどのような影響が出たか、何に困っているのかを明らかにする必要があると考えた
<https://www.ifca-projectc.org/>

＜この調査にかかわった人たち＞←

当事者メンバー：A.S.・こっぺ・C.S.・みき・原田理沙・山本愛夢←

専門職メンバー：井出智博（北海道大学）・岡 桃子（立教大学）←

小山田育（クリエイティブ・ディレクター）←

長瀬正子（佛教大学）・永野 咲（武蔵野大学）・西村英一郎（弁護士）←

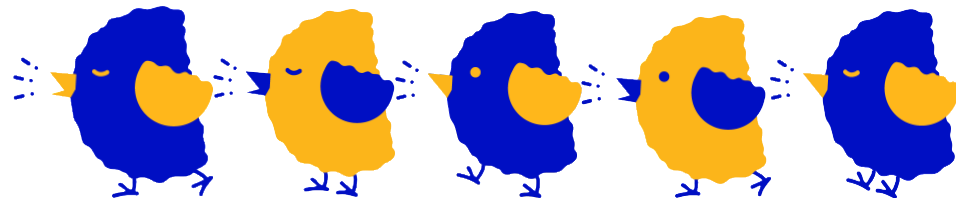
橋本愛美（SOS 子どもの村 JAPAN）・畠山由佳子（神戸女子短期大学）

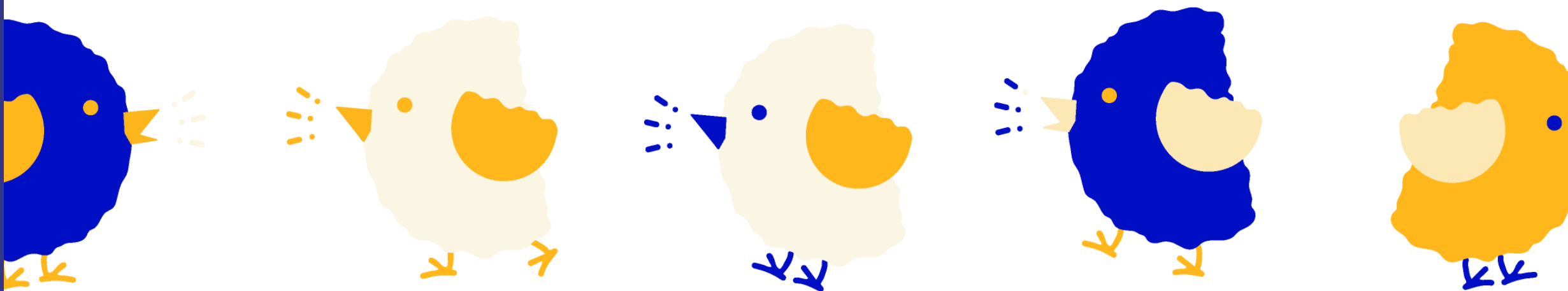
以上、五十音順←

本報告に関わる調査は、JSPS 科研費 20K13775「日本におけるケアリーバー調査のシステム構築と制度との循環（永野咲）」の助成を受けています。

webアンケートの実施

- webフォームによる質問紙調査を実施。（武蔵野大学人間科学部研究倫理審査を受審承認番号:2020-2）
- 対象は、過去に社会的養護を経験したことのある16歳以上40歳未満の方
- 他の当事者団体や支援機関への依頼、SNSでの呼びかけを行い、回答しやすいようQRコードも設定
- 回答者へは謝礼品（電子ギフトカード）を後日配送
- 調査は2020年5月25日～6月30日までの期間を設定、開始
- 回答の集まりの進捗によっては、期限前に締め切ることを提示（結果的に、想定を超える回答数が早期に集まり、2020年6月14日締め切り）





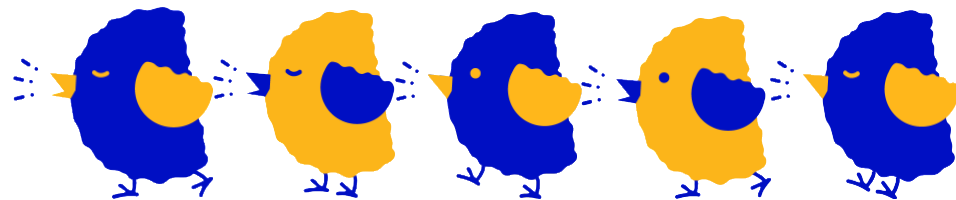
アンケート回答者はどんな人？ —回答者について

報告書URL : https://86283326-d78e-4024-89ad-4ae6088278c8.filesusr.com/ugd/8d98e0_68b6bc5b3fe0486cb29e48ea43ed919d.pdf

- **合計**：425人
- **現住地**：39都道府県からの回答。東京都81人（19.1%）、大阪府45人（10.6%）、福岡県33人（7.8%）の4都市が37.5%を占める。大都市圏に在住の方の回答が多い
- **年齢**：20歳60人（14.1%）が最多。平均22.8歳。22歳以下で54.2%を占める
- **性別**：男性109人（25.6%）、女性297人（69.9%）、回答拒否15人（3.5%）、その他2人（0.5%）



- **4. 子育て**：同居・扶養している子どもが83人（19.5%）。回答者のうち5人に1人が子育て中
- そのうち21.7%（18人）が、子育てを代わってくれる人・手伝ってくれる人（配偶者・恋人・自分の親・友人など）がいない
- **5. 社会的養護の経験**：最も多い回答である児童養護施設は340人（80.0%）。ついで、130人（30.6%）が一時保護所を経験している（ただし、一時保護経験者には、措置や委託になった人と、家庭引き取りになった両者がいる）
- 12.0%が里親家庭、10.8%が乳児院、9.6%が自立援助ホームを経験





アンケート調査から
みえてくること

1. 社会的養護を経験した若者たちは、もともと脆弱な生活基盤で生きることを強いられてきた

①非正規雇用の高さ

- 新型コロナ危機以前の仕事の状況：正規職員として働いていたのは109人（25.6%）にとどまり、52.5%がパート・アルバイト、契約社員、派遣社員として働いていた
- 無職（求職中・休職中でない）も50人（11.8%）

②大学等進学率の低さ

③家族やメンタルヘルスの問題



2. コロナ・ショックの与えるダメージが大きく、一気に深刻な状況になる

①収入が不安定になる

147人（34.6%）が収入が不安定になり、121人（28.5%）が時間・収入が大幅にカットされた。また、21人（4.9%）の回答者が、新型コロナの影響ですでに解雇された。

②お金の困っている

経済状況の先の見通しを尋ねたところ、96人（22.6%）が、経済状況について1か月先ではなく、「現在、お金の困っている」と回答している。

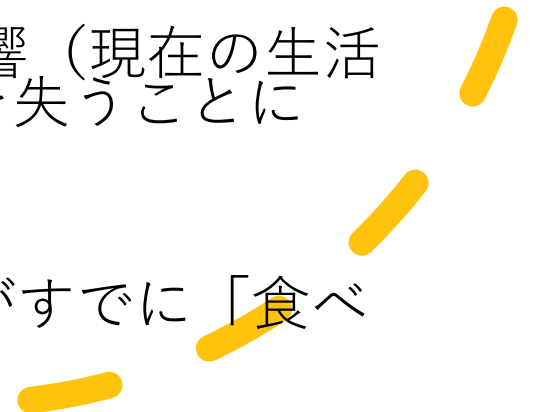
③住まいを失う不安

92人（21.7%）が、生活状況や住まいの状況にネガティブな影響（現在の生活状況・住まいを離れることを余儀なくされそうで怖い・住まいを失うことになった）がある。

④食べるものがない

58人（13.6%）が食料を確保するのが難しく、17人（4.0%）がすでに「食べ物がない。ピンチ」の状況にあります。

⑤学費の不安



3. 精神的に追い詰められるが、適切なケアが受けられていない



①不安が高まり、精神的に追い詰められる

- この2週間の状況について、207人（48.7%）が、「落ち込んだり、鬱（うつ）っぽくなったり、絶望的な気分になっている（よくあてはまる、あてはまる）」
- 229人（53.9%）が「悩むのをやめられなかったり、心配するのを抑えることができないでいる（よくあてはまる、あてはまる）」

②必要な医療・カウンセリングにかかれない

- 161人（37.8%）の回答者が、必要な医療、精神的ケア・カウンセリング、薬の入手ができなくなり困っている

4. コロナ対策に家族での対応が求められたことで、再燃する問題

①家族内の暴力／葛藤の高まり

- 新型コロナの流行による現在の同居家族や同居者との関係に影響について、「関係が悪い」「悪化した」のは合わせると、63人（14.9%）

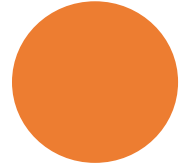


②生き立ちとの直面

- 「家族」による支え合いが求められるなかで、社会的養護を必要とした過去との対峙を迫られることも、当事者ユースのこれまで生きてきた地盤を揺るがすような危機

「『自分には頼る人がいないんだ』と改めて痛感するキッカケとなってしまい、辛かった」
「自分がこのような状況に追いやられたのは過去の経験があるからだ、と絶望感に苛まれた」

5. 頼る人がいないなか、 アフターケア・公的制度が不十分



①頼る人がいない

- コロナ禍において、相談や支援を受けられるケースワーカーや施設職員・里親がいる回答者は、25.9%にとどまる
- 118人（27.8%）が、「自分だけでどうにかしている、または、ほとんど自分だけでどうにかしている」
- 59人（13.9%）が、「新型コロナ危機のなか、もっと多くの人とのつながりがほしかった」

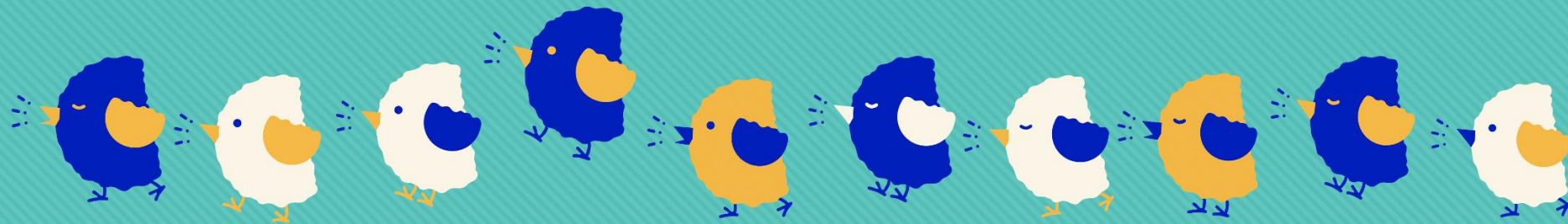


②公的制度が不十分・公的制度を知らない

- 新型コロナの危機によって、8.0%が、生活保護を受給中または申請中・予定
- 9.4%が、公的支援（生活保護・失業保険）について知らない



私たちからの6つの提言



IFCA東京チーム
原田 理沙

提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

こちゅん

社会的養護の声と声を繋げるProject Cの「C」を模したキャラクター

社会的養護のおしゃべりする鳥
色がみんな違うことには理由があるんだ



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

支援関係の終了や
担当者が変わると
人間関係がぶつ切れになる



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

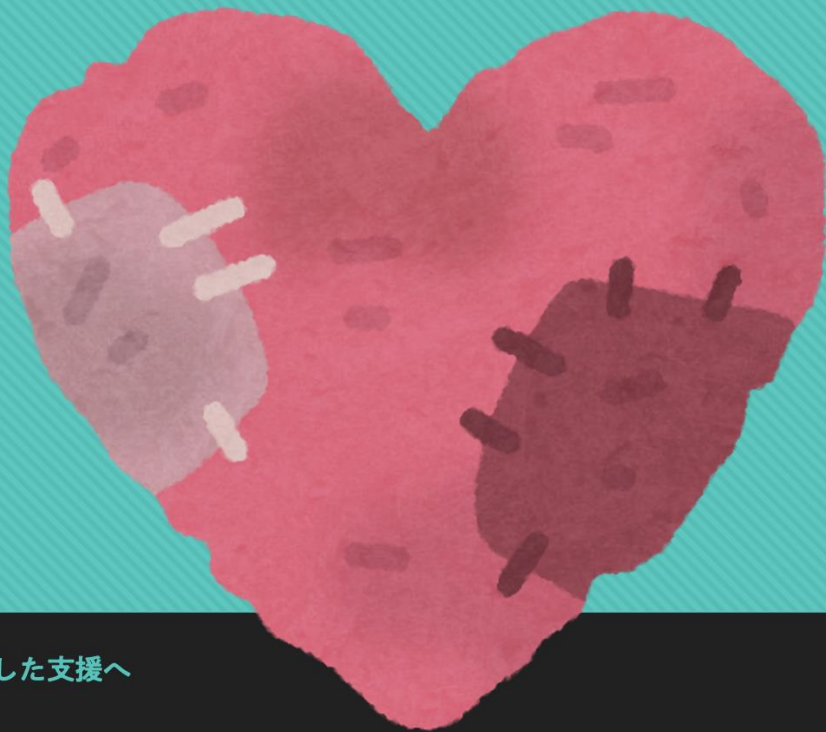
提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保証を



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

提言6 社会的養護の当事者参画を



提言1 「健全な」家族を前提とした支援から、一人一人の状況に即した支援へ

提言2 柔軟で継続的なつながりがもてる社会的養護を

提言3 逆境体験に対する精神的なケアの保障を

提言4 社会的養護を離れてからの支援に責任を

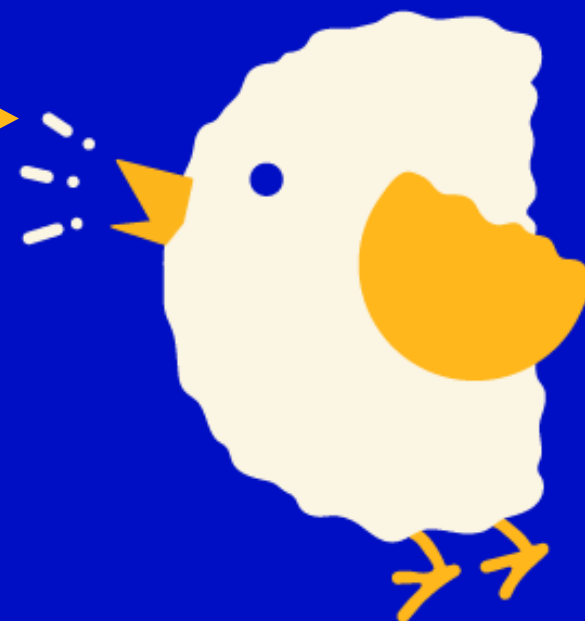
提言5 社会的養護措置解除後の実態把握を

提言6 社会的養護の当事者参画を

休憩中～♪

アメリカのユースはどうだったのかな～？

次は、社会的養護の当事者ユースの団体として全米にネットワークを持つFosterClub（フォスタークラブ）のポリシーマネージャーである Angel Petite（エンジェル・ペティート）さんのお話です。



アメリカにおける当事者ユース

FosterClub（フォスタークラブ）

ポリシーマネージャー

Angel Petite（エンジェル・ペティート）
さん

聞き手：栗津美穂

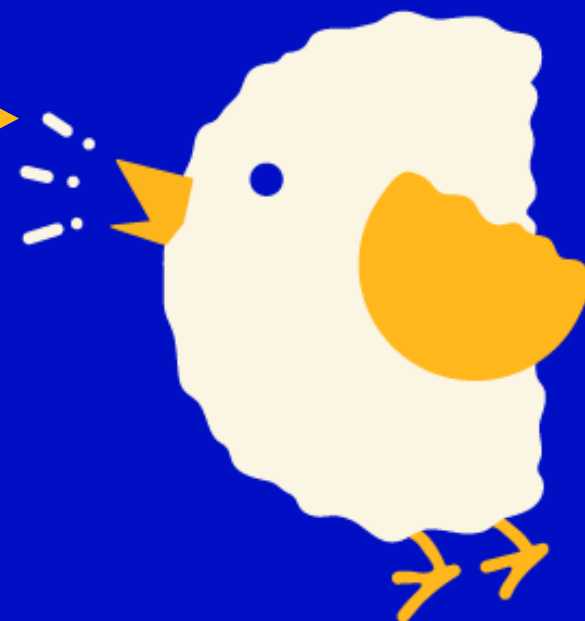
（IFCAエグゼクティブマネージャー）



休憩中～♪

日本のユースのお話、楽しみちゅん♪

次は、日本ユースのトークセッションです。



日本の当事者ユース トークセッション

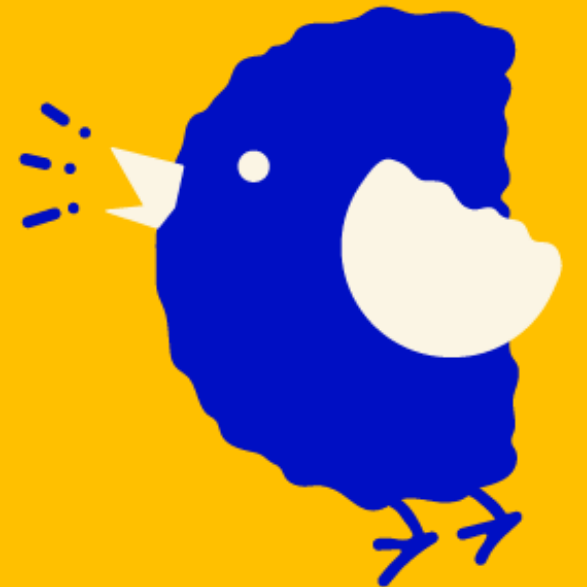
メンバーは、

東京チーム：こうへい、理沙

関西チーム：愛夢、いくみ、ふうか、響

コーディネーター：井出智博

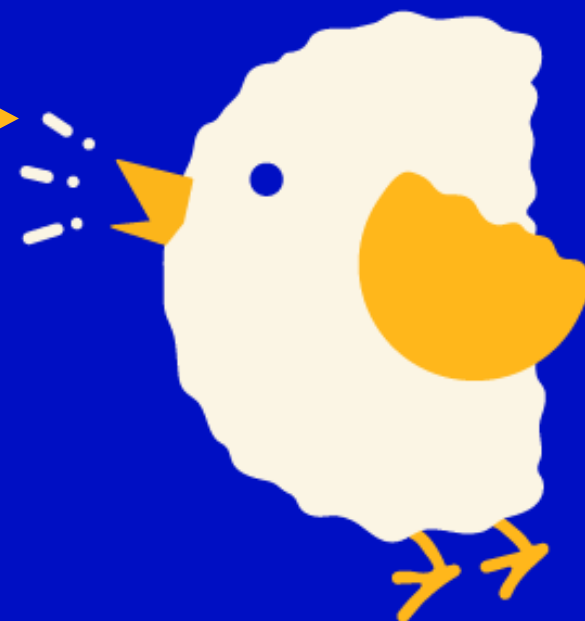
(北海道大学)



休憩中～♪

質問すべてにお答えできない可能性が高い
ちゅん。申し訳ないちゅん。

次は、質疑応答です。



閉会あいさつ

IFCAエグゼクティブマネージャー

栗津 美穂





International Foster Care Alliance

御礼

ご参加ありがとうございました。
アンケートへのご記入、よろしくお願
いいたします。

ありがとうちゅん♪

